
とある世界の幻想創帝（イマジンクリエイター）

鐘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イマジンクリエイター
とある世界の幻想創帝

【Nコード】

N1861N

【作者名】

鐘

【あらすじ】

少年、神光蒼真は転生者だ・・・ある場所に転生して、もう5年、転生場所は 学園都市、総人口は約230万人（その8割は学生）。超能力が科学によって解明された世界。能力開発を時間割り（カリキュラム）に組み込む巨大な学園都市。原作は、もちろん知ってる、今、少年が介入することで・・・未来は変わる・・・のか？原作崩壊！キャラ崩壊

．．
なんでもありのダメダメファンタジー・・・苦手な人は回れ右を．．

駄文ですが・・・よろしく願いします m - m

キャラクター設定（前書き）

とある世界の幻想創帝の作者の・・・ダメやろつベルですm - - m
今回はオリ主・・・神光蒼真の紹介です
よろしく願います。

キャラクター設定

（主人公設定）

名前 神光蒼真 しんこう そつま 男 年齢 14 歳
身長 170 cm 体重 52 kg

少し長い黒髪で瞳は紅色、めんどくさがり屋な性格 美青年
5年の間に、いろいろやって中学校には・・・書類上は居るが
登校していない・・・中学三年だが
戦闘時には冷静な戦い方と素晴らしい判断力！？で能力使用しな
くても

強い、以外な激情家でもある・・・
知らぬ間に風紀委員 ジャッジメント の手伝いをしているので
黒子達とは面識がある、普段は街を散歩している

（能力）

イマジンクリエイター
「幻想創帝」 超能力者（レベル5）。

頭の中で想像した物・現象・などを創ることが可能
物理現象を無視したり、天変地異だつて起こすことが出来る
一番よく使うのが大量の刀を自分の上に創りだす飛ばすことや
身体能力の一定時間上昇させることなど

転生前見ていたアニメ技を、よく使ったりもする

「幻想殺し」には弱い

ダークマター
「未元物質」の強化版みたいでもある

システムスキャン
長く身体検査を受けていないので序列は不明

9歳の時は第6位だった、

デュアルスキル
「多重能力」と言われることも・・・

次回から 第1章・・・日常事件編

キャラクター設定（後書き）

蒼真「最強！？までいかないが・・・強いな」

作者「その通りさb」

蒼真「駄文に期待する奴はいないけど・・・まあ頑張れ」

作者「・・・駄文でも頑張る・・・」

蒼真「次回は身体検査だろ」

作者「うん、ついに新の序列が明らかにだね」

蒼真「受験生が・・・何やってるんだか・・・」

作者「まあ気にしないのw」

作者「それでは！」

作者「次回から本編です！よろしくですm - - m」

第一話 身体検査（システムスキャン）（前書き）

転生後2回目の身体検査^{システムスキャン}

行われる場所は・・・なんと常盤台！

蒼真は、のんびりしながら常盤台に向けて歩いていた・・・

第一話 身体検査（システムスキャン）

「何創造しようかな……」

転生から5年も経ったのか……学園都市の地理も分かってきたし原作スタートも近いだろう……自由な生活最高っ！

「ん？おつ白井はんじゃねえーか……案内？」

「遅いですわ！20分も遅刻するだなんて……まったく！」

さん、では無く、はん……ここ重要、さん付けするのが嫌だから、はん、にしたのだ

20分も遅刻して……怒ってるな……

「おっ！黒子じゃない、何してんの？」

「この方をプールへ案内中ですわ」

システムスキャン
「身体検査かゝ見てっていい？」

学園都市230万人の頂点……7人のレベル5の第3位……には見えないな……

なんつーか失礼だが……風格が無いって言うか……まあそれが良い所だな

「まあ行こうぜ……早く終わらせたい……」

御坂と白井といっしょにプールに向かう途中……なんか変な視線をけっこう感じたが……

まあ気にしない方向でいこう

「君が……神光蒼真君か？」

「・・・違います」

「何バ力をおっしやってますのっ！」

バシッ！

「イテッ……はい、そうです」

ツツコミにしては・・・痛いぞ！欧 かつ！並の威力はあったな・

「んじゃ自分の好きなタイミングで能力発動させて……」

「あいよ……」

何しようかな・・・どうしよう・・・何創造しようかな・・・

$$(((((\dots)))$$

どうする・・・神光蒼真・・・皆の前でいいとこ見せるのかっ！

「はやくしてください!」

バシッ！

「すまん……んじゃ」

2度目のツツコミ……頭イタイぜ……まったく……プールを消すか

蒼真が目を瞑り……手を前に出すと……

() () () () なっ ! () () () ()

プールのある空間が歪みだし……蒼真が手を握りこぶしにすると

() () () () なっ ! ? () () () ()

プールが消滅した・・・

「い、一体何をしましたの？」

「簡単だ……プールのある空間ごと消滅する現象を起こしたのさ」

[illegible]

全員ドン引きだっ！？せつかくの見せ場で……ミスってしま
ったのか……

俺のバカバカ・
・
・

「もう一回お願いしますっ!!」

「え？そんなこと言われても……」

「しますっ！（土下座中）」

「わ、わかつたから、やるぞ！」

チャンス再び・・・見せ場だ・・・思いつきりやる

「無限の刀……行け！」

空間にが割れ・・・その先には部屋が見える・・・蒼真の部屋だ・
・
自分の部屋へと繋がる空間を創りだしたのだ

「んじゃっ・・・また会おう！」

蒼真が部屋に入っていくと・・・空間が元通りになった

「な、なんですか？あの方は・・・信じれませんですよ」

「・・・私が・・・第4位・・・今度会ったら勝負よ！勝負！」

・
・
新たな1位誕生に学園都市は祭りのような騒ぎになり・・・
どこぞやの、いろんな計画やらが一瞬にして崩壊した瞬間だった・

く次の日の朝く

「ん？・・・何やら人の気配が・・・」

「お目覚めの気分はどうですか？」

「白井はんの顔が見れて最高」

「何バ力をおっしゃってますのっ！（／／／）」

あれ？同居？違うぞ・・・一人暮らしのはず・・・ん？川が見えるぞ・・・

部屋じゃない・・・白井がいる・・・

「お姉様が待つてますわ、早く起きてくださいまし」

「・・・戦闘だけは拒否します」

「しょうがないですね・・・」

ヒュン！

白井が俺を触ると・・・空間移動して・・・
テレポート

戦闘は避けられない様子・・・不幸だあ・・・上条の気持ち
が分かったよ

「なんで・・・俺なんだ？上条がいるだろ」

「なっ！あいつは関係無いわよっ！」

なんつーフラグだ・・・上条さん・・・さすがっす！

「早くしないと・・・殺るわよ！」

字が違うよー！違うよー殺ると書いて、やる・・・酷いぜっ

「初春、あれが新しい第1位の人なの？」

「そうですよ佐天さん・・・あれが幻想創帝の神光蒼真さんです
イマジンクリエイター
っ！」

俺って・・・有名人なのかっ！なんか嬉しいな・・・
あれっ？・・・銀行強盗事件終わってるじゃん！・・・やってし

まった・・・orz

「やんなきゃダメ？」

「当たり前でしょ！さあ！やるわよ！」

よし・・・字が普通だ・・・あんな可愛い子が殺るなんて・・・
使っちゃダメだぞ

「いいだろっ・・・遊んでやる」

「やっど、やる気になったわね・・・後悔させてやるんだから！」

レベル5との初戦闘・・・相手は超電磁砲レールガンの御坂美琴
蒼真の戦略とは・・・？

～次回へ続く～

第一話 身体検査（システムスキャン）（後書き）

蒼真「いきなり原作破壊・・・なんて奴だ」

作者「まあまあ・・・次回頑張ってくれ！」

蒼真「頑張るのは・・・お前だけだな・・・」

作者「駄文なら！任せとけっ！」

蒼真「ダメだこりゃ・・・」

作者「頑張るもん・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm - - m」

作者「駄文ですが・・・よろしくですm - - m」

作者「次回 第2話 超電磁砲^{レールガン}！」

第二話 超電磁砲（レールガン）（前書き）

常盤台の頂点・・・御坂と戦うことになった蒼真
第1位の力・・・見せ付けることが出来るか？
幻想創帝VS超電磁砲

第二話 超電磁砲（レールガン）

「いいだろっ・・・遊んでやる」

「やっと、やる気になったわね、後悔させてやるんだからっ！」

・・・と言うと、雷の槍が飛んできた・・・さすが御坂・・・

「マテリアル・ハイ！」

空間に大気を超圧縮変換したブロックを造りだし、雷を防ぐ・・・同時に

御坂の頭上にもブロックを造りだす・・・

「フォールダウン
固定解除！」

重量のあるブロックを落とすが・・・砂鉄によって破壊されたあの一瞬で砂鉄を操って破壊とは・・・さすがだ

御坂の手には砂鉄の刀？のような物が握られている・・・

「砂鉄の刀ってか・・・凄い振動数だな・・・」

「触れてみる？少し血が出るけどっ！」

御坂が言葉と同時に走り出す・・・けっこう速いな・・・

「砂鉄の刃と光の刃・・・比べてみるか？」

手の平に光を集めて・・・剣を創り出す・・・

「あまのむらぐせ
天叢雲剣・・・」

ガキイイン！！

ぶつかると同時に砂鉄の刃は折れてしまった・・・
驚いた顔も、なかなか可愛・・・ゲフンゲフン・・・集中集中

「無限の刃よ！行け！」

空中に大量の刀を創り出し・・・飛ばす・・・が
簡単に砂鉄で防がれた・・・orz

「さすが御坂だ・・・だが！」

蒼真の体に雷が纏う・・・と青く光りだした・・・

「あたしと電撃で勝負するって言うの！？舐めるのもいい加減にしなさいよっ！」

「雷天充装・・・」

バゴッ！

「・・・カハア！」

一瞬で御坂の前に移動し・・・腹を殴る・・・驚きながらも後ろへ吹っ飛ぶが

気絶までは・・・いらないか

「はぁ・・・はぁ・・・何したの？あんだ」

「雷の速さで移動して殴っただけだ・・・気絶しないなんて・・・さすがだ」

さすがに今のでKO勝ちだと思ったんだけどな・・・少し甘く見てたな

「舐めてじゃ・・・ないわよっ!」

・
御坂がコインを取り出し・・・上に弾く・・・これが超電磁砲か・・・

「ならば・・・はっ!」

その場で足踏みをする巨大な壁が蒼真の前に現れた・・・

「そんな物でっ!」

これこそ!超電磁砲っ!・・・って壁で見れないだとおお!!しまった・・・

俺としたことが・・・見れないじゃないか!

ドゴォーッーン!!

電磁加速により音速の3倍で飛ぶコインと巨大な壁が激突・・・

「・・・っそ」

壁は破壊されていない・・・コインが壁に当たっているが・・・壁には傷もついてない

コインは地面に落ちている・・・

「電撃を吸収し・・・とっても頑丈な壁を創ったのさ・・・さあ・・・

まだやるか？」

「当たり前でしょっ！」

「だよなー・・・性格的にやめるなんて・・・ありえないか・・・
終わらせる」

「そろそろ・・・終わりにしてやる」

「はあ・・・はあ・・・」

蒼真が石を睨むと・・・御坂の周囲の石が小さくなっていき・・・

ドゴオーーーン！！

「一斉に爆発した・・・御坂は回避出来ず直撃・・・たぶん気絶の
はず」

「・・・気絶か・・・爆発する石の創造・・・」

「ありえませんわ・・・お姉様が負けるなんて・・・」

「御坂さんが負けるなんて・・・」

白井・初春・佐天・・・3人とも驚きを隠せない様子

「これで終わりだ・・・さて帰って寝るか・・・白井はん・・・後
はよろしく」

「あ、はいですの・・・」

前と同じように部屋に繋がる空間を創って部屋へ帰った・・・

「さて・・・昼飯・・・買って来るか」

蒼真が買出しに道を歩いていると・・・どこぞやらから・・・

「不幸だぁー！！！」

「ん？今のつて・・・まさか・・・」

頭で考える前に体が動いていた・・・

声のある場所に向かってみると・・・小銭が散らばっていた・・・
可哀想に

財布を開けて金の確認でもしてたら・・・やってしまったのだろ
う・・・さすが上条さん

「手伝いましょうか？」

「いいのか！？サンキュー」

強力な磁力みたいなもの（磁力では無い）を手に発動させると・・・
落ちていた小銭が手に全部くっついた

小銭程度ならくっつく減少を発生させてみたが・・・成功のようだ

「すげえーな！お前・・・俺なんかレベル0だぜ」

・・・最強のレベル0と言っても間違えじゃないような気がするけど・・・

本物に会えるなんて・・・

・・・その後雑談で盛り上がり・・・見事、上条メールアドレスを手に入れて

一人で盛り上がる蒼真の姿を、大勢の人が見たのは、また別の話

第二話 超電磁砲（レールガン）（後書き）

作者「キャラの口調が分からない・・・orz」

蒼真「さすが・・・ダメ作者」

作者「気合と根性と妄想で頑張るぞ！」

蒼真「3つ目なかったら、かつこいいセリフだったのにな・・・」

作者「感想いただきました！ 海馬コーポレーション様 黒龍様
ありがとうございますm - - m」

作者「次回も頑張りますっ！・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm - - m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・次回もよろしくですm - - m」

作者「次回 第3話 ジャッジメント 風紀委員」

第三話 風紀委員（ジャッジメント）（前書き）

御坂との戦い 上条との遭遇とイベント盛りだくさんの一日を終え
今は、まったり街を食べ歩き中・・・

第三話 風紀委員（ジャッジメント）

「今日は平和で楽しいな」

ドゴォーーン！！

「……さっきの俺が恥ずかしい……」

近くのビル中で爆発が起きた……行つて見るか？

いや！無駄な戦闘は避けるべきだけど……行つてみよう

「……白井はん発見……戦闘中……か」

白井VS10人位の不良軍団か……能力者も居るねえ

ここは……見物しますかつ……

発火能力や……サイコメトリー読心能力も居るか

白井はん……ピンチかも……能力者は4人か……

白井は心を読まれ……動いた後に攻撃され……怪我している

「白井はんに怪我を負わせた……奴らに地獄を見せてあげない」

怪我をしていて、上手く演算出きないのであろう……以外にもピンチなのだ

「さて……正義の味方の登場だ……行くぜ！」

蒼真は一人の発火能力バイロキネシスの能力者が火を手についた瞬間爆発させた

ドゴオーン！

()()()(なっ！？)()()()

やっぱ皆驚いた・・・どうやって登場しようかな？

「一人の美少女相手に集団は無いな・・・まったく」

普通の登場シーン・・・期待してた人は・・・ごめんなさい
え？誰も期待してないって？orz

「蒼真さん！？なんでここにいますの？」

「怪我をしている美少女を助けに来た」

「こ、この程度大したことありませんわっ！(ノノノ)」

不良軍団が何か話してやがる・・・まあ終わらせよう

「さあ・・・100倍の重力に耐え切れるかな？」

ドゴオーン！！！！

相手の居る空間の重量を100倍にしてみたら・・・5階から一
気に1階まで・・・やりすぎた

10倍にして・・・皆気絶ですか・・・

「本当に貴方の能力はなんでもありですね」

「それより・・・大丈夫か？」

「大したことありませんわ」

「・・・けっこんな怪我に見える・・・火傷だな・・・治すのが男
つてもんかな」

「さて・・・ケアルガッ！・・・これでよし」

「本当になんでもありませんのね・・・ありがとうですわ」

アンチスキル
「警備員に任せるか・・・んじゃ俺は退散」

退散しようと思ったら・・・

「少し付き合ってもらいますわ」

ヒュン！

「・・・え？ここは・・・何故初春がいる・・・風紀委員かよ

「私の補佐みたいなこと・・・やってくれませんか？（／／／）」

「・・・上目遣い反則だっ！・・・断るのか？断ってしまうのか？

「いきなりだな・・・」

「前から言おうと思ってたんですけど・・・すぐ逃げるのは誰です
の？」

「・・・すみません」

ジャッジメント

風紀委員か・・・白井はんの補佐ねえゝ悪くないけど忙しいorz
こんな目で見られたら・・・

「まあいいよ、俺で良ければけど・・・」
「本当ですよっ！」

手を握られた・・・可愛い・・・お持ち帰・・・ゲフンゲフン・・・
自重の精神ここにあり

「まあ白井はんの頼みなら・・・仕方無いさ」
「では、まずこれを・・・」

9枚ほどの契約書をやらされた・・・普通ならやる試験や研修は
無しらしい・・・よかった

・・・平和な時間は・・・ないのか

「終わった・・・これだけで疲れた」

「よ、よろしくですの・・・」

「ああ・・・よろしく」

風紀委員か・・・原作介入が増えたな・・・まあ頑張りますか
初春はんにも挨拶を・・・

「蒼真さんっ！風紀委員ジャッジメントに入ったんですか！よろしくお願いします
！」

礼儀よくお辞儀して・・・他の人達も何やら・・・敬語やら・・・
おかしくね

「なあ、白井はん・・・皆こんなに良い人ばつかなのか？」

「はあ・・・学園都市のレベル5の第1位前には普通緊張しますのよ」

・・・なる水口、そういうことか

・・・なんか嫌だな・・・よしっ！

「皆よく聞いてくれ！新しく風紀委員ジャッジメントになった神光蒼真だ
まだ新人で、何すれば分からないけど・・・あんま氣を使わなくていいから

普通に接してくれ・・・ってことで、よろしく！」

この言葉を言っただけは後悔した・・・質問攻めと言っただけ・・・
仕事の恐ろしさを・・・不幸だあ！

・・・時間は過ぎ・・・今は、いつもの4人+俺でクレープを

食べている

な〜んか・知ってるような状況だけど・・・気にしない

「ほほ〜ゲコ太ねえ〜これを欲しい奴は居ないよな・・・（ギロリ）」

「み、皆クレープ食べにいきましょ！・・・べ、別にゲコ太が欲しいわけじゃないのよ」

・・・素直になれないねえ〜ツンデレ乙！だ・・・可愛いな・・・でも・・・ゲフンゲフン

これがレベル5には思えないぜ・・・

クレープを選びながら待ち・・・佐天さんと話しながら待っていた・・・

「ゲコ太 ゲコ太」

「ただだけ期待してんだよ・・・」

おっ・・・俺の順番だな・・・えつと

「お客様・・・最後の一つになります・・・」

「・・・えつ？」

・・・後ろを見てみると・・・

「あたしの・・・ゲコ太が・・・orz」

期待のしすぎで・・・精神的ダメージが大きいようだ・・・ゲコ太恐るべし

・・・あげる以外の選択肢無いな・・・これ

「御坂・・・ゲコ太あげるよ・・・俺いないから」
「本当っ！ありがとう！」

復活した・・・無邪気に喜ぶ御坂・・・お持ちか・・・ゲフンゲフン！

まあ・・・良かった良かった・・・

「さて・・・食べるか・・・ん？」

おかしいな？・・・これ・・・知ってるような気がする
最後のゲコ太・・・でも・・・何かが違うような気がする

「ねえ蒼真・・・銀行のシャッターなんで閉まってるのかな？」
「・・・まさか」

ドゴォーーーーーン！！

シャッターが爆発で吹き飛び・・・強盗と思われる男・・・5人
！？が出てきた
何か違うような気がする・・・行くか！

第三話 風紀委員（ジャッジメント）（後書き）

作者「いいところで終わり」

蒼真「なんてやろうだ・・・」

作者「今回は、三下のセリフは死亡フログですわよ！だ」

蒼真「ネタバレやないかつ！題名違うだろ」

作者「蒼真君・・・以外に変態だね」

蒼真「無限の刃よ・・・行け！」

作者「すいませんでしたあああああ！・・・」

蒼真「そうだっ！感想があつたんだ 海馬コーポレーション様
ありがとうございますm・・・m」

作者「駄文魂で頑張らないと・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm・・・m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・次回もよろしくですm・・・m」

作者「次回 第4話 断罪時間 ジャッジタイム

第四話 断罪時間（ジャッジタイム）（前書き）

銀行強盗事件・・・3人？ぐらいだったはずなのだが・・・
蒼真が居ること未来が変わる・・・

第四話 断罪時間（ジャッジタイム）

「初春！^{アンチスキル}警備員に連絡を！」

「御坂はん達は見学してなっ、あれは白井はん達の仕事だ」

「あなたもですわ！」

バシッ！

くっそ！流れで言ってみただけダメだったか・・・なんで5人も居るんだ？

俺の知らない風になってるのかよ・・・

「ジャッジメントですよ！」「拘束するから覚悟しろ」セリフを言わせてくださいな！」

・・・笑ってるね・・・イライラするよ・・・ク　リンのことがあー！とか言って覚醒しそうだ
・・・なんで5人？まあいいか

「こんな餓鬼^{ジャッジメント}が風紀委員とか、風紀委員も人手不足か？」

男が余裕の表情で、こっちへ向かってくる・・・2人・・・俺もやるか！

あの一番好きなセリフだあ！

「「そっいう三下のセリフは」」

ヒュー！ドゴン！

「「死亡フラグだぜ（ですわよ）」」

白井はんが上手い体捌きで相手の体勢を崩し戦闘不能に、俺が腹を殴って背負い投げ！一本！

・・・このセリフが言えるだなんて・・・

「なんで同じことを言いますの？」

「さあ？俺達心が通じ合っ「馬鹿を言わないでくださいまし！」

バシッ！

・・・普通に痛いよ・・・ツツコミ恐るべし

「さうて俺は・・・おろ？テレポーター空間移動能力者が居るぞ？めんどいな」
「任せますわよ」

「あいよ・・・あら、逃げたぞ一人で・・・ったく」

セリフの途中なんだからさ！待ってくれてもいいだろ！

「さうて居場所は・・・ふむふむ、んじゃ行くか！」

空間を割って相手が移動した場所に行った・・・

「ふう～ここなら・・・」

「残念だったな・・・相手が悪かった」

「なっ！なんでここに居やがる！？」

・
驚いてるね・・・ってか、御坂はんの怒りの超電磁砲レールガンみたいから・・・
早く終わらせるか

「てめえ！動くなよ・・・この紙を、てめえの首にやって殺すぞ」
「・・・良い物を見せてやろう」

雑魚キャラ相手つてのは・・・気が引けるが・・・主人公つてのは！出し惜しみをしないもんだ！

「絶対制御空間・・・発動！」

・・・見た感じ何の変化もございません・・・

「ははは！なんだ、てめえ！舐めてんのか？」
「・・・能力使ってみたらどうだ？雑魚キャラさんよ・・・」
「ふざけやがっ・・・て！？能力が・・・発動しねえ・・・」

絶対制御空間

フルで20分しか使えないが、蒼真から一定の距離に

蒼真以外能力使用不可能の空間を創り出す・・・使用後の頭痛は
厳しいorz

「チェックメイトだ・・・」
「うわあああああああ！」

終わり・・・と、さて・・・戻るか・・・空間を割って銀行に移動
すると・・・

「キャッ！」

佐天さんが・・・蹴られましたね・・・
プチン！ 蒼真の頭の中で何かが切れる音・・・

「黒子！！」

「は、はい！」

「これは・・・あたしが個人的に売られた喧嘩だから・・・手出して
いいわよね・・・」

まず・・・御坂が噴火する・・・

「それ・・・俺に譲ってもらおうか・・・」

「あたしの喧嘩に手・・・出さないでくれる？」

「・・・そこを頼む・・・ゲコ太を件もあるだろ」

必殺！ゲコ太！！！！

「はあ～しょうがないわね・・・って！ゲコ太は関係無いわよ！」

車が～キタアアア！なんて言ってる場合じゃねえ～な
・・・一瞬の地獄を見せてやろう・・・

「あ～頭痛嫌だな・・・まあしょうがない」

絶対制御空間の後には使いたくないな・・・頭が・・・orz
車が、もの凄い速さで・・・やってくる・・・速いな
蒼真が片手を前に出すと・・・空間が歪みだす・・・

「空間消滅・・・」

手を握りこぶしにすると同時に歪みの空間と車が衝突して・・・
車が消滅した・・・・・・・・

「っ!？・・・頭痛いな・・・」

（（（（（・・・））））） 周囲・・・何があったか理解出来
てない

「そ、蒼真さん！何をしましたの!？」

「前も見ただろ・・・空間ごと消滅する現象を起こしたのさ・・・
頭が痛いぜ」

物理的にありえない現象を起こすには、高い演算能力と・・・
しい頭痛に耐える忍耐力が必要だ
空間を消滅させるなんて現象は・・・けっこう厳しいな・・・

「犯人はどうしましたの？」

「あつ・・・今出すから・・・よっ」

空間が歪み犯人だ吐き出されるように出てきた・・・気絶してま
すね

「私が補佐のように見えますわね・・・」

「んなこと無いさ・・・白井はんの補佐だから気合が入ってるのさ」

「あ、当たり前ですわ、恥をかかせないようにしてくださいまし（
／／／）」

後始末は・・・
アンチスキル
警備員に任せますか・・・

「ん？お金の入っていると思われる鞆が無いように感じるのは・・・気のせい？」

「・・・ありませんわね・・・っ!？」

何やら・・・もう一人居たみたいな感じの空気だよ・・・これまた仕事するの・・・orz

「追いますわよ！まだ遠くに行っていないはず！」

「手分けして・・・行るか！」

二人とも別の空間移動して探すことにした・・・

く探すこと4分ぐらいく

ドゴォーーーーーン!!!!

「戦闘パートに入ってるじゃん・・・まったく」

爆発音のしたところが近くで助かったな・・・
急いで向かってみると・・・白井はんが・・・負けてる？
状況的に負けてるね・・・なんで？

「なんだ？もう一人きやがったのか・・・」

プチン！ 蒼真の頭の中の何かが切れる音・・・

「気をつけてくださいまし・・・触ると・・・目が見えなくなりま
すわよ・・・」

ウゼエー能力だな・・・視覚遮断フレクアイ・・・ってか？知らないけど

「お前は・・・潰す・・・」

「何ほざいてんだ？てめえも、こいつと同じようにボコボコにし
てやるよ！」

・・・死亡フラグ回収しまゝす・・・

「絶対制御空間・・・」

本日2度目！大好評（好評ではありません）の必殺技・・・
ああゝ頭がああ・・・カキ氷食べたあの痛みの強化版みたいだ
ぜ・・・

バゴオン！

相手の顔面にストレートパンチ！効果抜群だ！

「へっ・・・触ったな・・・もう見えな「オラッ！」ガハア！・・・
なんで見えるんだ？」

「・・・同じ説明は一日に2度目しねえよ・・・詰みだな・・・」

最後に身体能力を上げて放ったストレートパンチで俺のKO勝ち！

「大丈夫か？よっと・・・」

「もう大丈夫って！何してますの！」

・・・お姫様抱っこですが？なにか？問題ありますか？
痛い！誰だ？石投げた奴はっ！

「や、やめてくださいまし（／＼／）」

「却下（空間移動テレポートで移動すればいいのに・・・）」

そのまま御坂達のもとに戻って・・・一件落着・・・かな？

第四話 断罪時間（ジャッジタイム）（後書き）

作者「反則だゝ強すぎるぞ！」

蒼真「お前が言うんじゃない！」

作者「でもゝインパクト無いなゝつまんねゝゝゝ」

蒼真「逝く準備はゝゝ昔から出来てるなゝゝゝ」

作者「mゝゝm」

蒼真「プライドの無い奴だゝゝゝ」

作者「そうだ！感想感謝コーナー！」

黒龍様！海馬コーポレーション様！トレイン様！」

作者・蒼真「ありがとうございます！mゝゝm」

蒼真「こんなのに感想くれるなんてゝゝなんて心の広い方達なんだゝゝゝ」

作者「感謝感激爆発寸前 おいw」

作者「ありがとうございます！それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってます！mゝゝm」

作者「駄分すぎてゝゝ困りますがゝゝ次回もよろしくです！」

作者「次回 第5話

創始消終」
エ
ン
ド
・
オ
ブ
・
ク
リ
エ
イ
タ
ー

第五話 創始消終（エンド・オブ・クリエイター）（前書き）

創造と消滅・・・始まりと終わりとも呼ばれる能力
明かされていない幻想イマジン創帝の全ての力
謎が今・・・解き明かされる・・・かも！？

第五話 創始消終（エンド・オブ・クリエイター）

「今日も、お仕事めんどいな」

「真剣にやってくださいまし！」

バシッ！

痛い・・・けっこう痛い・・・めんどいな・・・

「まあめんどいぐらいの平和が一番さ」

ドゴオーン！！

「さつき平和を返しやがれ！！」

「行きますわよ！」

場所は近い・・・いきなり戦闘パートですか・・・
原作じゃないよね・・・はあ or z

「ジャッジメント風紀委員ですの！」「このお方が貴方達を拘束します！」貴方もや
ってくださいまし！セリフの途中ですよ！」

ケラケラ笑ってやがる・・・さすが俺のボケだな・・・
まあもつすぐ地獄が待ってるけどね

「餓鬼が二人ゝ実験台には良さそうだな」

・・・実験台？理科の授業ですか？俺理科好きだよ
・・・嫌な予感しかないんですけど・・・

「俺達は強くなっただ！行くぜ！」

おおゝ立派な電撃ですこと・・・白井はんに回避されて・・・ノ
ツクアウト！乙！
レベルアップ
幻想御手か・・・

「貴方も仕事してくださいまし！」

「あいよ・・・重力・・・10倍だ！」

ドゴオーン！・・・回避した白井はん以外全員土下座っぱ
いですね・・・哀れ

・・・お仕事終わり・・・ファミレスGO！

「お疲れ様ですわ」

「ああ・・・お疲れ様、ファミレス行こうぜ」

「いいですけど・・・奢ってくださいるの？」

「ああ・・・いいぜ」

ファミレスへゝGO

ゝファミレスゝ

「あれ？黒子と蒼真じゃない」

そこには、御坂、初春、佐天、上条が居た・・・なんというレギ
ュラーメンバー

上条はんは・・・珍しいのかな？

「おおーいっばいいいな」

「おっ！男が、やっと来た・・・」

「上条はんー一人で疲れですな」

記憶がどろとかどうだかって・・・まあ気にするなだな
楽しい時間になるはずだ

「そついえばさー蒼真の能力ってなんなんだ？」

楽しい時間崩壊しましたね・・・一瞬で・・・上条さん俺に不幸
の時間を・・・

説明するの・・・簡単に説明するか

「それ、あたしも気になる、いろんなことやれるじゃない」

「私も気になりますの」

皆ジーンと見つめてくる・・・俺もモテたもんだな！

え？違うの？・・・なんだよっ！

「教えてやろう・・・俺の能力は・・・」

((((うんうん))))

5秒ぐらい間を空けて・・・

「創るだけです」

バシ！ボコ！バギ！・・・しばらくお待ちください

「説明した・・・のに」

「もうちょっと、詳しく説明してくださいまし！期待が損ですわ！」

創る以外・・・なんて説明すればいいんだ？

「ほら、技とか出来ることとかさ」

く神光蒼真く能力解説（詳しく）く

能力名 イマジンクリエイター 幻想創帝 超能力者（レベル5）

「知ってますわ」

「今セリフ入れたらダメだろ！」

物体・現象・一部生命体・を創り出すことが出来る

物理法則関係無し、天変地異みたいな現象を創り出せるが、頭痛が酷い

一部生命体を創り出すには時間が掛かり、一定時間で消滅する、

上と同じで頭痛が・・orz

小さい物体なら、もの凄い数創ることが出来る、光や水、電気や炎だって創ることが出来る

生命体を創る以外で一番疲れるのが 消滅現象 を起こすこと

「反則だな、これ」

「生命体ってどんなの創れるんですか!？」

「だからさ」セリフ入れないでくれよ!」

～主な技紹介～

絶対制御空間

自分から一定距離に存在する能力者は能力使用不可能となる

最大継続時間20分 距離は蒼真から700m

弱点 幻想殺しには弱い、空間創っても右手の存在で消される

空間消滅

一定の空間を歪ませ、そこに存在する固体、液体、気体を消滅させる

詳しく言うと消滅では無く、別次元に消す技でもあり、蒼真が戻したければ、すぐ戻る

使用後の頭痛があり、一日3回までしか使用出きない

クリーチャーズ

生命創造

10分間の間、生命体を創造出来る、最大3体まで同時に創り出せる

創るまでに1分間必要だが、想像によっては化け物も創ることが可能

使用後は、一定時間、生命体を創造できない（3体創造後）

クリエーターウエポン
創造武装

武器・鎧などを創造し装備する、刀を創造して飛ばしたりするのは、これに入る

空を飛ぶ羽だつて物を貫く光を飛ばす銃だつて創造出来る
蒼真が一番気に入っている技

「まあ今紹介出来るのは、この程度だな」

$$(((((\dots))) \text{トノリ物}))$$

「え」と……なんか、ごめん」

「そんな凄い能力だったなんて・・・」

「白井はんのために、この能力を正義に使うのだ！」

「私のためにつて……（／／／）」

始まりと終わりの能力、創造と消滅

完璧な始まりが、
幻想創帝

完璧な消滅が
幻想殺し・・・上条はんやね・・・

「まあこれが今の学園都市第1位ってとこだな」

「それが風紀委員の、サボリだなんて……」

「白井はんと、いつしよの時は仕事してるぜ」

威張って言うて見る

「普段から仕事してくださいまし！」

「白井はんの補佐だからな、補佐以外やる気無い！」

全員飽きてますね・・・まあ当たり前か
だって、めんどくさいもん！・・・ん？佐天さんが白井はんに何
か言ってる・・・

「本当ですよ！？それをやったら、やってくださいますの？」
「やってくれますよーたぶん」

何をやるんだ・・・

「蒼真さん！」

「なんででしょうか？」

「し、仕事やってくださいですよ・・・」

少し涙目＋上目遣い・・・我が生涯一生の悔い無し！！！！
蒼真戦闘不能・・・お持ちか・・・ゲフンゲフン・・・反則だ・・・
ろ

「任せろ！やってやる！」

「本当ですよ！サボりはダメですよ」

「「「「・・・単純だ」「」「」

・・・と仕事と言う地獄に追い回される日々だった・・・

第五話 創始消終（エンド・オブ・クリエイター）（後書き）

作者「変態めが!！」

蒼真「お前のが変態だ!」

作者「感想感謝コーナー 海馬コーポレーション様!

作者・蒼真「ありがとうございます!! m - - m」

作者「感想くれるだなんて・・・感謝感激だ」

蒼真「心が広い方なんだよ」

作者「期待に答えられるように頑張らないと」

蒼真「期待してる人いるのか?」

作者「でも頑張るさ!それでは!」

作者「皆様からの評価・感想待ってます! m - - m」

作者「駄文すぎて・・・困りますが、次回もよろしくです m - - m」

作者「次回 第6話 レジエント 都市伝説」

第六話 都市伝説（レジェンド）（前書き）

木山 レベルアップ 春生・・・事件の犯人で都市伝説の一人
幻想御手事件の犯人

蒼真は今・・・木山 春生とエンカウントしたのだ・・・

第六話 都市伝説（レジェンド）

「・・・木山先生ですか？」

「君は・・・何故私の名前を知っている？」

「・・・一発真実を言うか・・・どうしようか？」

「レベルアップ幻想御手・・・おふざけは無しだ」

「・・・君は何を知っている」

「・・・大体全部です・・・それと俺、ジャッジメント風紀委員ですよ」

「・・・驚いてるね～どうしようかな？」

「捕まえるのか？」

「いや・・・楽しませてもらいますよ」

「私の前に立ちほだかるのか？レベル5」

俺って以外と有名人！？照れるな（／／／）

「さあ？・・・また会いましょう・・・木山先生」

「もう会いたくないがな・・・」

これで何か変わるのか？原作通りにはならないであろう・・・
まあ楽しみにしとくか・・・

「お仕事中（戦闘中）」

「最近能力者が多いですわ！」

「めんどくさいな・・・」

連続虚空爆破に介入しなかった蒼真

・・・忘れていたのだった・・・

「これって・・・偏光能力トリックアートの奴じゃねえか！」

白井は男を追って・・・ヤバイぞ・・・

「さっきまでの威勢はどうした!？」

すでに終盤まで行っており・・・やられてるな白井はん・・・
ここは・・・俺が介入するか

「・・・偏光能力トリックアートごときが・・・」

「ほぉ俺の能力を見破るなんて・・・何者だ?てめえ?」

「蒼真さん・・・奴の能力は危険ですわ・・・」

俺からしたら雑魚だけだな・・・まあ本気つてのを見せようかな
?一回だけ

主人公に出し惜しみは無しだ!

「お前は運が良いな・・・本気を見せてやる?」

「なんだ?てめえくボコボコにしてやるうか?ああ!」

「絶対制御空間・・・」

いつも通りの能力封じ・・・奴の姿が見えてきたぞ・・・

「な、なんで!?どうなってんだ!」

「次元空間・・・創造!」

ヒュン!

相手と俺は絶対制御空間が永久的になる・・・蒼真の創りだした別次元に移動した・・・

そこは・・・何も無く・・・真つ暗な空間・・・

「な、なんで!?ここは・・・てめえ!何しやがった・・・」

「俺は帰る・・・お前は終わりだ・・・次元空間・・・消滅」

ピキッ!ピキピキ・・・

空間が割れていき・・・消滅した・・・

「・・・終わりだな・・・」

次元が消滅する前に男を戻し・・・気絶か・・・
一件落着・・・と

「白井はん大丈夫か?」

「こ、この程度大丈夫ですわ!」

まあ大丈夫じゃ無いだろうが・・・

～散歩中～

「おい蒼真！」

「ん？・・・ああ東か・・・」

あずまゆうじ
東勇地

能力者 レベル4

能力名 ブレイクガイヤ
破天大地

地面や岩などを操る能力、地震や地割れなど、岩を飛ばすなどの技を使用

蒼真とは仲が良く、よき理解者であり、親友の一人、同い年で普通ぐらいの茶髪で168cm

蒼真とコンビを組んで不良撃退している、原石でもある

「やつほー蒼真君」

「都神もいつしょか・・・」

とがみ ありさ
都神有紗

能力者 レベル4

能力名 ユグドラシル
永遠之樹

木を地面から出したり、自然を操る能力、木や葉、風などを使って戦う

蒼真とは仲が良く、頭が良く、少し無邪気な子、肩に乗っかるぐらいの黒髪で152cm

蒼真達とよく行動している、東と同じく原石

「今日は姫野いないのか？」

「いないよ」

ひめのゆずか
姫野柚華 能力者 レベル0

能力名 リバースステイニー
逆転運命

色々と逆転してしまう能力（次回詳しく説明）

蒼真達とよく行動している、普段は寝ている、のんびり屋、長い黒髪で160cm

上条に負けじと不幸な人生を歩んでいる

「蒼真・・・事件だが行くか？」

「不良退治か？んゝ行こうかな・・・見学に」

「おっし！暴れるか！」

能力名

第六話 都市伝説（レジェンド）（後書き）

作者「短いですが・・・終わりますm - - m」

蒼真「オリキャラ出たな・・・」

作者「次回紹介します・・・詳しく」

蒼真「更新スピードは、けっこう速いな・・・」

作者「一応頑張ってます」

蒼真「まあ頑張ってくれ」

作者「あい！・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってます！m - - m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・次回もよろしくです！m - - m」

作者「次回 キャラクター紹介②」

キャラクター設定 2 (前書き)

神光蒼真の周囲の人間達

蒼真率いる軍団 クリエイターズ 創帝軍団のメンバー紹介

蒼真 + 四天王 + 姫野 レベル4の4人が四天王

蒼真に戦いを挑んだ人もいるが返り討ちにされている
皆仲が良い

キャラクター設定 2

キャラクター紹介

リーダー 神光 しんこう 蒼真 そうま 男 14歳 170センチ 52kg

少し長い黒髪で瞳は紅色、めんどくさがり屋な性格 美青年
5年の間に、いろいろやって中学校には・・・書類上は居るが
登校していない・・・中学三年だが

戦闘時には冷静な戦い方と素晴らしい判断力！？で能力使用しなくても

強い、以外な激情家でもある・・・
ジャッジメント
風紀委員に所属していて黒子の補佐をやっている

美少女に尽くす変態なところもある（都神と黒子は特に）

能力名 イマジンクリエイター 幻想創帝 レベル5

物体・現象・一部生命体・を創り出すことができる

物理法則関係無し、天変地異みたいな現象を創り出せるが、頭痛が酷い

一部生命体を創り出すには時間が掛かり、一定時間で消滅する、
上と同じで頭痛が・・・orz

小さい物体なら、もの凄いく創ることが出来る、光や水、電気や
炎だつて創ることが出来る

生命体を創る以外で一番疲れるのが 消滅現象 を起こすこと

主な技

絶対制御空間

自分から一定距離に存在する能力者は能力使用不可能となる
最大継続時間20分 距離は蒼真から700m
弱点 幻想殺しには弱い、空間創っても右手の存在で消される

空間消滅

一定の空間を歪ませ、そこに存在する固体、液体、気体を消滅させる

詳しく言うと消滅では無く、別次元に消す技でもあり、蒼真が戻したければ、すぐ戻る

使用後の頭痛があり、一日3回までしか使用できない

クリエーターウエポン 生命創造

10分間の間、生命体を創造出来る、最大3体まで同時に創り出せる

創るまでに1分間必要だが、想像によっては化け物も創ることが可能

使用後は、一定時間、生命体を創造出さない(3体創造後)

クリエーターウエポン 創造武装

武器・鎧などを創造し装備する、刀を創造して飛ばしたりするのは、これに入る

空を飛ぶ羽だって物を貫く光を飛ばす銃だって創造出来る

蒼真が一番気に入っている技

別次元創造

自分と誰か一人を創りだした別次元に移動させる技

別次元は真っ暗で何もなく、常に絶対制御空間が発動している

あずま
東 勇地 男 14歳 168cm 51kg

普通ぐらいの長さの黒髪で目も普通・・・蒼真の親友でよく理解者でもある

原石の一人でもあり、やる気十分で不良撃退などをしている
力は強く、運動神経も良いが、頭脳は残念・・・実力はある
蒼真、東、都神の3人で戦う姿を見て、周囲の人達は戦神とも呼んでいる

能力名 ブレイクガイヤ
破天大地 レベル4

地面、大地を操る力で、岩、地面、石、などを使用して戦う
地形を変化させて戦うことも得意で地震、地割れが得意技の一つ
広範囲攻撃が得意で攻撃一つ一つの威力が高い

主な技

大地破碎

地面を殴り地割れを起こす、使用しすぎると地形が変わってしまう
うので普段は使用していない
敵の戦力を半分半分にするのに、よく使用しており、攻撃では、
あまり使用されていないが

攻撃に使えば、恐ろしい攻撃にもなる

メテオクラッシュ
破撃隕石

巨大な岩を空中に投げて、空中で破壊し相手に隕石の如く突撃させる技

広範囲技で一気に相手の数を減らすのに使用される
巨大な岩のまま落とすと後始末が大変らしい・・・

ガイヤウオール
大地之壁

巨大な岩の壁、城壁の如く作り出し、大抵の攻撃を防ぐことが出来る

守りの戦闘スタイルでは無い東は、あまり使用していない様子
ピンチのときに使用する技である

とがみ
都神
ありさ
有紗
女
14歳
152cm
秘密

肩に乗るぐらいの金髪で瞳は蒼色、無邪気で蒼真に甘えるのが好き
蒼真達と仲が良く、メンバー以外の男は嫌い、頭が良く演算能力も高い

レベル5に近いレベル4である、原石でもある、今まで唯一蒼真との戦いで

蒼真に傷をつけた人間で、そのときの約束で蒼真に、よく甘える恋姫の朱里に似ているかも

能力名 ユグドラシル 永遠之樹 レベル 4

自然の力を利用する戦いで、木、葉、風、などを操って戦う戦闘スタイル

巨大な樹を生やして根っこで戦ったり、竜巻を起こしたり出来る学園都市を植物の国に出来る程木をはやすことで可能

主な技

ユグドラシル
永遠之樹

能力の名前の由来の技、巨大な一本の樹をはやし、根っこや葉で攻撃する

15階のビルと同じぐらい大きい樹でもあり、攻撃、防御、ともに優れている

1時間したら枯れてしまうのが弱点、一日2本が限界

ハリケーン
天王竜巻

巨大な竜巻を発生させる技

1分間の間、巨大な竜巻を発生させ、その場にある物を破壊し続ける竜巻

間違つて自分も吹き飛ばされてしまったことがある 一日2回限定

ヴァジユラ
樹獅子王

都神の最終兵器の技、樹の根っこで巨大のライオン？を創りだし自由に暴れさせると言う技、都神と蒼真以外を襲うため仲間に被害あり

何度破壊しても都神が疲れるまで再生し、破壊活動が続ける獅子

姫野^{ひめの} 柚華^{ゆずか} 女 14歳 160cm 秘密だ！

上条に負けない不幸な人間
あまり目立たず、いらぬ時に出てきて必要なときに出てこない
普段は、のんびり家で寝ていて、戦闘は、好きではない

能力名 ^{リバースデステイニ} 逆転運命 レベル0

本来ならレベル3程度だが・・・自分に起こる現象が反対になっ
てしまう能力だ

反対になるかならないかは本人でも分からず、役に立つ能力なの
かも分からない

謎が多き能力で、ある技も無く・・・素手で能力者と戦える

縁城^{えんじょう} 信時^{しんじ} 男 14歳 165センチ 49？

長い金髪の黒い瞳の男で、あまり話さず、メンバー以外とは話さない

運動神経も良く、頭も良いが、人付き合いが、よく分からない様子
自分の能力を、あまり好まず、能力以外で勝てるように鍛えている

能力名 ディバインテス 絶対死帝 レベル 4

触れた物体の腐食化、精神にダメージを与えて自殺へ追いやつたり
骸骨や影を操ることも出来て、死へ繋がる能力とも呼ばれる
抑えなければ、大抵の対戦相手は死ぬ

主な技

ソウルジャッジ
魂断罪

相手の精神を自殺するまで追い込み、精神を崩壊させる技
そこまで行かずとも戦意喪失させたり、寝返りさせたりと、応用
がきく

ダークコントロール
闇之支配

影、骸骨、などを操る技で影の人を作ったり、骸骨の軍団を作つ
たりと

影を使用すれば、色々なことが出来ると本人は気に入っている

ディバインテス
絶対死帝

能力の名前の由来の奥義、最凶にして最悪と本人は言う
怪我のしている人間の怪我の部分に触れると、五感は鈍くなり腐
食していく技

大抵の場合、相手は死ぬ・・・

帝 みかど 夏芽 なつめ 15歳 167センチ 秘密だよ

長い黒髪ストレートに黒い瞳、蒼真達と仲が良く、よく働く人
本気で戦うタイプで天性の勘と優れた運動能力を持つ
究極的に最悪な料理を作ることと別で有名な女の子

実力はメンバーの中で第3位（蒼真1位 都神2位 帝3位 東
4位 緑城5位）

能力名 フレイムエンペラー 神炎皇帝 レベル4

炎を操る能力・・・発火系の中でも最強クラスの能力

炎の龍を作って攻撃したり、巨大な炎の玉を飛ばしたり、炎の中
に相手を閉じ込めたりと

周囲の気温を上げたり、超圧縮した炎を爆発させたりと攻撃方法
は様々

主な技

フレイム・ディストラクション

帝のの一番得意な技、巨大な炎の柱を地面から、たくさん出す技
広範囲技でランダムに出してるため、味方に被害報告あり
敵の大半をこの技で倒す

エンペラードラゲーン
神炎皇龍

巨大な炎の龍を作り出し、暴れさせる技、龍とぶつかれば、人間
ならば体が溶けるほど

一日3回が限界で龍は3分ほど暴れると消える

紅蓮爆発

超圧縮した炎を投げつけ、巨大な爆発を起こす技
周囲を気にせず使用するため被害報告あり

広範囲技で危険で自分も巻き込まれる可能性もある

キャラクター設定ゝ2（後書き）

作者「チートな軍団だな・・・」

蒼真「原作介入は・・・少ないけどな」

作者「学園都市相手にも負けないかもゝなんて」

蒼真「・・・強いな」

作者「次の一話はこの人達の暴れる話です」

蒼真「俺の出番・・・あるかな？」

作者「あると思う・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってます！m - - m」

作者「駄文ですが・・・次回もよろしくです！m - - m」

作者「次回 第7話 創帝軍団」

クリエイターズ

第七話 創帝軍団（クリエイターズ）（前書き）

不良軍団の撃退、今回は大人数・・・
今、蒼真と仲間達の、圧倒的な戦いが始まる・・・

第七話 創帝軍団（クリエイターズ）

「どんだけ居るんだよ・・・」

「蒼真く早く倒して帰ろうよ」

「ああ・・・そうだな」

・・・蟻のように、ウジャウジャだな・・・気持ち悪い
まあいつも通り終わらせるか・・・

「んじゃ・・・行くぞ！」

この言葉を合図に一斉に突撃していった・・・

「早く帰って甘えるんだもん！永遠之樹！」
ユグドラシル

不良軍団の真ん中に巨大な樹が突然出てきて、根っこで相手を
なぎ払う

レベル3程度の炎じゃ燃やせない・・・

「俺だって！破撃隕石！」
メテオクラッシュ

空中で破壊した岩が次々と襲い掛かる・・・敵になす術は無く
次々と戦闘不能になっていく・・・

「能力使うまでも無いよ・・・」

緑城は能力を使用せず、体術で敵を戦闘不能にしていく・・・

「いっくよ！フレイム・ディストラクション！」

地面から次々と現れる炎の柱、やっぱ、この程度の相手じゃ準備運動にもならないな

「人がゴミのようだ・・・」

名言だな・・・まさか、本当に言う日がくるなんて・・・

「終わりだ！後始末は俺がやる・・・」

全員が退いたのを確認して・・・

「絶対制御空間・・・」

有紗の永遠之樹も一瞬で消滅し、夏芽の炎の消滅
これで終わり・・・と

「つまんなかったな・・・んじゃ解散！」

「蒼真！いっしょに帰ろうよ！」

「悪い・・・仕事があるんだよ」

風紀委員と言う究極に、めんどい仕事だな・・・
シャッジメント

「蒼真最近遊んでくれないよ・・・」

「また今度遊んでやるから・・・な？」

頭を撫でると・・・

「絶対だよゝえへへ（／＼／＼）」

一発で機嫌が直る・・・なんて簡単な奴なんだ・・・

「簡単じゃないもん！蒼真に甘いだけだもん！」

「人の心を読むな！」

「蒼真の顔に書いてあつたもん！」

「嘘つけよ・・・何時書いたんだよ！」

「昨日だよ！」

「俺は、そんな顔で街を歩いてたのか・・・恥ずかしいな」

恥だぞ・・・顔になんか書いて街を歩くなんて・・・

「んじゃゝな」

いつも通りの不良退治が終わった・・・
レヘルアツパー 幻想御手 事件も終盤
だな

木山先生を、フルボッコにするのか？どうしようか・・・
・・・と考えながら仕事をするのであった・・・

事件の終盤、佐天さんが昏睡状態になり・・・事件の真相がわかってきたとこだ・・・
そろそろかな・・・俺も向かうとするか・・・

未来は変化している・・・誰も知らない方向へ・・・

蒼真の知らない物語が・・・動き出す・・・

第七話 創帝軍団（クリエイターズ）（後書き）

作者「すいませんm - - m短いです><」

蒼真「誰も知らない物語？」

作者「君がいるから変化しちゃうんだ！」

蒼真「んじゃ俺にどうしろと？」

作者「・・・さあ？」

蒼真「・・・・・・・・（イライラ）」

作者「ご、ごめんなさい、」

作者「感想感謝コーナー、黒龍様！海馬コーポレーション様！

s a t o s h i 様！感想と指摘ありがとうございますm

- - m

作者「感謝感激・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm - - m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・次回もよろしくですうm - - m」

作者「次回 第8話 幻想猛獣（AIMバースト）」

第八話 幻想猛獣（AIMバースト）（前書き）

事件も終盤、ジャッジメント風紀委員として働く蒼真
木山春生の暴走、事件は予想もしない展開へ・・・

第八話 幻想猛獣（AIMバースト）

「・・・木山にやられたか・・・」

木山の力に敗北した警備員（アンチスキル・・・
今頃は御坂と戦闘中だろう・・・怪物も出てくるな・・・

「見つけたぞ・・・神光蒼真」
「ん？誰だ、・・・」

・・・こんなエンカウントあたっけか？
またまた原作崩壊ですか？・・・酷いぜ

「・・・貴様を殺す」
「主人公は負けないもんなんだよ・・・」

相手がいきなり岩を飛ばしてきやがったテレキネシス念動能力かよ
・・・すぐに片付けるのが世の情け・・・

「悪いが雑魚キャラに時間を使うほど余裕が無いもんでな・・・」
「貴様！ふざけやがって！」

怒ってるよー怖い怖い・・・あんまし時間使いすぎると、後々めんどーだからな

「しんろてんせい神羅天征！」

斥力を自由自在に操る。全身から放つ、手から放つなど使い方も色々。但し連続使用できず、最低5秒間のインターバルを作ってし

まう。作中では次の使い方がある。能力で自在に操る斥力を創り操作している、相手はなす術も無く吹き飛び・・・戦闘不能

「さて・・・御坂は・・・ん？」

あれ・・・変な化け物が居るよ・・・遅かったのか・・・orz
けっこう大きいな・・・御坂頑張れ！・・・じゃなかった・・・
介入しないとな

「やってるな・・・御坂」

「やってるじゃないわよ！なんで再生すんのよ！」

・・・まあ音になるまで・・・足止め頑張りますか・・・

「無限の刃よ・・・行け！」

ドドドドドドドド！

大量の刃がAIMバーストに刺さるが再生する・・・
御坂の攻撃も再生・・・めんどくせえ

「いつそのこと消滅させられますか？・・・時間ねえな」

音になった・・・御坂さんの本気だね・・・フルボッコだね
俺もやる？・・・ストレス解消！

「裁きの光・・・」

化け物の頭上に超圧縮したような光を創りだし・・・落とす

ドゴォーン!!

化け物の体の一部は吹っ飛び・・・御坂も、原作通りに戦っている・・・

「俺からの最後の攻撃だ・・・阿修羅・解!」

高速で振動するバースト粒子を集合させたオーラを剣のような形にまとめ、振り回して攻撃する技。木すらも蒸発させる程の威力がある。御坂の、とどめで・・・終わりと

「終わった戦は、とつとと退散・・・んじゃな!」

とある忍びの名言さ! ううゝ言えるなんて・・・感動だ!

事件は一時、原作通りに終了し・・・平和な時間ゝ
事件後、何故居なくなっただかで怒られる蒼真の姿が見られたとか・
・

今、蒼真は都神と歩いています・・・

え？何故かって・・・付き合ってるからさ・・・聞いてない？
それは作者が勝手・・・ゲホンゲホン！・・・言いたくないから
さ！

「蒼真どこいくの？」

「知らない・・・」

「・・・」

まったく、ノープラン！何するかも、どこに行くかも決めてない
自由主義さ！

「歩くの疲れるから部屋に行こうよ」

「そうするか・・・」

外でのデートは一瞬で終わり、部屋で、まったくのんびりする
ことに決定！

やっぱり、のんびりが一番良いよな・・・うん

「蒼真」

突然の突進攻撃！「グハア！」効果抜群だあ！！

「突然だな・・・よしよし」

頭を撫でている・・・和むねえ

「・・・んっ」

なんて可愛い反応だ！・・・いかにかん・・・落ち着け、平常心さ！

俺は紳士・・・ジェントルマンさ

「蒼真く眠そうな顔してるね・・・」

「眠いからな・・・」

「んだったら・・・」

有紗が、俺のを膝枕する展開になった・・・マジで寝るぞ・・・
おやすみ・・・ZZZZ

「寝るの早いねくあたしも寝る・・・ZZZZ」

こうして・・・平和な時間を過ごす蒼真でした・・・

第八話 幻想猛獣（AIMバースト）（後書き）

蒼真「突然設定なんでやねん！」

作者「・・・気分さ！」

蒼真「原作キャラとは何もなすか・・・」

作者「さあ？どうだろうか？」

蒼真「・・・」

作者「今回は、デート！？っぽい話にしようかな？」

蒼真「・・・」

作者「無視しないでください><すいませんm・・・m」

蒼真「もうちょい、ちゃんとした奴だと思ってたのにな・・・」

作者「こんなものさ！」

蒼真「・・・」

作者「うむ・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm・・・m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・次回もよろしくです！m・・・m」

作者「次回 番外 恋愛物語」
ラブプラン

いつも以上に駄文の予感・・・

番外 恋愛物語（ラブプラン）（前書き）

都神と付き合っている

今回は、甘い？普段の恋人っぽいような日常
駄文です><

番外 恋愛物語（ラブプラン）

「蒼真」

「よしよし・・・」

いつものパターンで頭を撫でる、どこにも行かず
家でのんびりしてる・・・それが日常

「えへへ蒼真、やつぱ家に居るのが一番だねえ」

「ああ・・・そうだな」

和むなゝやつぱ家でまったりとするのが一番だ・・・
それにしても軽いな・・・ちゃんと食べてるのか？まあいいか・・・

・

「んゝ眠いな・・・」

「いっつも寝ちゃうじゃん！つまんないよ」

「いっしょに寝ればいいだろ？」

「あ、そ、そうだけど・・・（ノノノ）」

急に顔を赤くして・・・何か言ったか？

「ううゝバカア・・・（ノノノ）」

「何故機嫌が悪いのか知らんが・・・」

女心っていうの？わかんないもんだな・・・まあ俺は男だからな
わからんのが普通かな？まあ・・・

「・・・んっ」

「・・・んっ・・・んちゅ」

顔を近づけて軽い感じのキス

「んはぁ・・・もう一回・・・」

「甘えん坊さんは困るな・・・んっ」

「んっ・・・んちゅ・・・んはぁ・・・ふうっ（／／／）」

戦闘中は、とんでもない鬼なのにな・・・この時は
まだまだ可愛い小さい女の子だな・・・

「眠くなってきたよ・・・」

「寝るか？のんびりと・・・」

「うん・・・」

いつもと同じパターンで、のんびりと寝ることにした・・・

「蒼真といつしょ」

「おやすみ・・・」

有紗が俺の胸に顔を埋め・・・ZZZ

「・・・よく寝たもんだな・・・」

「気持ち良かった」

あの後2時間ぐらい寝ていた・・・よく寝れた気がする・・・

「ねえねえ！将棋で勝負しよ！」

「勝敗は見てるだろ？」

よく勝負を挑まれる・・・まあ俺が勝つけども・・・

「・・・ここだ」

「・・・え！？」

「・・・次はここ」

「・・・へえ！？」

「・・・終わりだ」

「にゃ〜〜！！負けた・・・」

今日も結局俺が勝った・・・勝った者からの命令だ・・・

「ほれっ・・・これ着てみてくれ」

能力で作り出したコスプレ服・・・まずはメイド服だな

「恥ずかしいよ・・・（／／／）」

「勝者の命令は絶対だぞ・・・」

「ううゝ・・・（／／／）」

（数分後）

「ど、どうでございましょう？ご主人様（／／／）」
「・・・・・・・・」

「・・・ヤバイよ、これ！ああゝ神様・・・今貴方の存在を感じました」

我が生涯悔いなし！・・・無理・・・だ

「にゃ！にゃああ！どうしたの蒼真（／／／）」

いきなり有紗に抱きつきに行ってしまった・・・
考えるより先に動くななんて・・・

「反則だ・・・可愛すぎる」

「そ、そうかな？ご主人様が喜んでくれて、うれしいです」

こんな感じで、俺達の平和な日常は過ぎていく・・・
これから、起こる事件なんて忘れて・・・

番外 恋愛物語（ラブプラン）（後書き）

作者「ロリめが！」

蒼真「貴様が言っなー！」

作者「くっそ・・・自分で見たら微妙だな・・・」

蒼真「駄文の代表作だな・・・」

作者「うう・・・」

蒼真「まあ頑張れ・・・」

作者「そうだね・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってます！m - - m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・次回もよろしくですm - - m」

作者「次回 第9話 一方通行」

アクセラレータ

第九話 一方通行（アクセラレータ）（前書き）

更新遅れましたm - m

忙しくて><すいません

一方通行の口調がダメダメだ・・・orz

元学園都市第一位 アクセラレータ 一方通行

絶対能力進化実験に参加し1万人以上の妹達を殺すはず・・・だったが
神光に阻止され・・・敗北し実験は終了

妹達は全員救われた・・・原作通り打ち止めとも仲良く・・・

上条に敗北し、打ち止めの助け、脳に負傷を負うも冥土返しにより
助かり

神光の友達でもある・・・

第九話 一方通行（アクセラレータ）

「よおっ！ロリコン・・・遊びに来たぜ」

「・・・てめエか・・・帰れエ」

相変わらずだな・・・本当に、打ち止めには優しいのにな・・・
ご機嫌斜めつばいし・・・缶コーヒー置いて帰るか・・・

「マジで帰ってきたな・・・話的には、もうちょいトークが必要だったな・・・」

色々と原作介入せず・・・のんびり生活しているが・・・
色々とあり一方通行と戦闘し・・・勝ってしまったことから
何故か仲良くなってしまった・・・

「ん？ありやく不幸の上条さんだ・・・」

こんな夜に何してんだ？・・・事件の予感しかないのは・・・俺

だけか？

まあ面白そうだし・・・

「上条はん・・・何やってんだ？」

「・・・俺の・・・俺の卵が・・・」

無残な姿になった卵達の姿が確認できる・・・なんて不幸なんだ・

絶望に浸っている上条の姿も確認できる・・・

「・・・ドンマイです・・・上条はん・・・」

「不幸だぁー！！！」

夜遅く叫んで近所の人達に怒られたのは・・・また別の話・・・

ジャッジメント

風紀委員の仕事で不良さん達と戦闘中

俺は参加せず白井はんが頑張っている・・・

え？なんで参加しないかって？めんどくさいからさ

「ふう～疲れましたわ・・・」

「だなくお疲れさん」

「貴方は何もやってませんでしょ！」

バシッ！

久しぶりに・・・ナイスなツツコミだ・・・
頭が痛い・・・

「あつ！今度常盤台で祭りのようなことがありますので・・・警備
よろしくですわ」

「・・・は？めんどいから却下で」

「頑張ってくださいまし」

「不幸だあ・・・」

な！流れで言ってしまった名言・・・不幸だあ・・・

「あれは・・・ロリコンではないか！」

「大声でうるせエ！」

バシッ！

またもやツツコミだと！・・・こんなキャラだったか？
こんな時間に・・・缶コーヒーかよ、さすが一方通行だな

「んじゃ小声ならいいのか？」

「殺すぞ・・・てめエ」

「俺に勝てるか？・・・やってもいいぞ」

「ウゼエな・・・一回勝ったぐらいで」

まあ一回でも勝ったは勝っただ・・・まあ弱点知ってるからな

「まあお前と戦うのは・・・めんどくさいから却下だ」

「・・・チツ」

なんか聞こえたけども・・・気にしない方向性で
打ち止めがないだと！？今気付いたが・・・どうかしたんだ？

「なんで打ち止めが居ないんだ？」

「あん？・・・寝てやがる」

「ほお・・・お菓子もあるな・・・優しいな～お前は」

「ぶっ殺すぞオ！」

「すまん・・・まあ、また会おう・・・」

恐いもんだ・・・まあさすがロリコンとでも言うべきだな・・・
本当は良い奴なのに・・・

その後ファミレスで打ち止めと一方通行の姿を見たのは・・・
まあ触れないでおこう・・・
警備か・・・めんどくせえな・・・

第九話 一方通行（アクセラレータ）（後書き）

作者「・・・m - - m」

蒼真「現実逃避の受験生よ・・・哀れだな」

作者「・・・うう」

蒼真「次回は・・・少し長いのだろ？」

作者「うむw そうなのだ！」

蒼真「まあ・・・がんばれ」

作者「ううゝむ・・・一応頑張るのだ・・・それでは！」

作者「妹達は全員生きてますw」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm - - m」

作者「駄分ですが・・・次回もよろしくですm - - m」

作者「次回 第9 / 5話 不能力者

マイナスパワー

第九、五話 不能力者（マイナスパワー）（前書き）

更新遅れて、すいませんでした m - - m

ほんとうは長くする予定でしたが・ m - - m

11話の予告的な感じです m - - m

第九、五話 不能力者（マイナスパワー）

能力者達を潰す……

我ら……不能力で……マイナスの力……見せてやる
手始めに……常盤台だな……ふふふ

不能力、-LVで表される未知の力

今、能力者と不能力者の戦いが始まる……

決戦の場所は常盤台……

未知なる不能力の力に勝つことは出来るのか？

勝利するのは……能力者か？不能力者か？

蒼真率いる創帝軍団も参加……

広がっていく戦火……次回から第2章……不能力者編

蒼真も知らない物語が始まる……

第九、五話 不能力者（マイナスパワー）（後書き）

作者「更新遅れて、すいませんm - - m・・・テストがor z」

蒼真「・・・・なんじゃこりゃ？」

作者「・・・・駄文だが？それがどうした？」

蒼真「いや・・・・それはいつも通りだが・・・・なぜにマイナス？」

作者「め かボツ スの単行本読んでたら・・・・」

蒼真「それ以上言うな・・・・駄文すぎて・・・・悲しいな」

作者「一応頑張りますwそれでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm - - m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・・次回もよろしくですm - - m」

作者「次回 第10話 ストーリーブレイク 原作崩壊」

第十話 原作崩壊（ストーリーブレイク）（前書き）

常盤台で行われる祭り・・・盛夏祭

皆が楽しめる祭りになるはずだった・・・

ある軍団が襲撃してこなければ・・・

第二章 不能力者編

第十話 原作崩壊（ストーリーブレイク）

「一人で祭りを潰そうなんて・・・いい度胸だな」

「ふふ・・・我らの不の力に・・・第一位など」

・・・何言つてんだ？不？不幸な人々？・・・上条さんですか？
まあ・・・よく分からないが

「無限の刃よ・・・行け！」

相手に飛んでいく無数の刃・・・だが

「その程度で・・・」

「なっ？」

黒い炎が壁のようになり・・・刀を溶かしていく・・・見たこと無い能力だ

どこぞの一族ですか？

「俺は・・・ドレインフレア・LV4腐喰黒炎の能力者だ・・・」

・・・聞き間違えじゃねえゝな・・・・LV4？聞いたことないぞ
我ら・・・ってことは他にも居るのかよ

「とつとと終わらせる・・・ファンネル！」

ファンネルによるオールレンジ攻撃！

え？・・・宙に浮くビームを出す機械つい作り出しました・・・

ニュー・イプとかじゃないよ・・・

「俺の黒炎は能力を吸収して・・・威力を上げる！」

「ちっ！まあ能力者の時点で負けだ・・・絶対制御空間」

皆様に大好評（好評ではありません）の必殺技だ！

え？反則だつて？気にしたら負けだ！

「終わりだな・・・行け刃よ」

ドゴオoooooooooooo！！

「まず一人目・・・祭りなのによ・・・」

ドゴオoooooooooooo！！！！

祭りの中央らへんで爆発・・・巨大なモニターに何かが映る

「常盤台の能力者達よ・・・貴様らは我ら不能力者によって殺される運命なのだ

我らの時代が・・・ふふふ」

映像が消えた瞬間・・・数人の人間が上空から常盤台に落ちてきて・・・

バゴoooooooooooo！！

攻撃を・・・開始しやがった・・・マジかよ
御坂の・・・くそおお！！

「ちっ！止めてみせる！」

常盤台は能力者の集まり・・・各地で戦闘が開始されている・・・戦争かよ

不能力者・・・よく分かんが・・・潰す！

~~~~黒子~~~~

「はあ・・・はあ・・・なんですの？貴方の能力・・・見たことありませんわ」

「ふつ、噂の風紀委員も弱いな・・・Lv4も雑魚だぜ」  
ジャツジメント

舐められてますわね・・・でも、あの変な能力を明かさなければ勝ち目はありませんわね・・・

「教えてやる！俺の能力は断骨死帝 - Lv4だ」  
ダイネクトボーン

「・・・聞いたことありませんわね」

「俺に触れた生物の骨は弱くなり・・・そのうち折れちまうんだよ！」

・・・直接攻撃はダメということ・・・ならば！

「無駄だよ！てめえの鉄の棒みてえくなのも無駄だ！」  
「っ！？」

行動を読まれましたわ・・・どうすれば・・・



~~~~御坂~~~~

「くっ！なんなのよ、あんた」

「さすがLv5・・・苦戦しますね・・・」

なんなの？こいつ・・・見たことも無い能力
あたしが苦戦するなんて・・・

「私は不能力者・・・四天王の一人・・・不瞳^{ふどう}袁^{えん}牙^がと申します
よろしく・・・御坂さん」

・・・さっき言ってた・・・不能力者って奴ら
せつかくの祭りを台無しにして・・・

「能力は・・・闇^{ディア}衣^ア死者^{ボロス}・・・Lv5・・・よろしく」

御坂と白井に襲い掛かる上位不能力者達・・・このピンチ・・・
どうなる？

次々に現れる不能力者達・・・どうなる？常盤台！？

第十話 原作崩壊（ストーリーブレイク）（後書き）

作者「長い休みを終わるな・・・」

蒼真「不規則すぎだ・・・」

作者「学校だな・・・orz」

蒼真「まあ色々頑張れ」

作者「おう・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm - - m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・次回もよろしくですm - - m」

作者「次回 第11話 ディアボロス 闇衣死者」

第十一話 闇衣死者（ディアボロス）（前書き）

テスト終わりました・・・やっとう更新できるw
お待たせしましたm - - m
短いからです

能力者VS能力者

LV5対LV5 超電磁砲VS闇衣死者の戦い・・・

第十一話 闇衣死者（ディアボロス）

（御坂）

なんなのよ！こいつ！

全然ダメージ喰らってる感じしないじゃない！

「どうなされましたか？超電磁砲さん」
「くっ！」

御坂は雷の槍を飛ばすも当たっているのだが
黒い服の中に吸い込まれてしまう・・・

「貴方の攻撃は無意味に等しい・・・諦めて下さい」
「誰がアンタなんかに負けるもんですか！」
「ならば・・・」

黒いマントがバラバラになったかと思うと大量の蝙蝠が襲い掛か
ってきた

「っ！？何よ、こいつら・・・」
「行け！我が僕達よ！」
「舐めてんじやないわよお！！」

ドゴオーン！

御坂の怒りの一言と同時に放たれる雷
蝙蝠達は黒こげになり・・・灰となり散っていった

「恐ろしい威力ですねえ・・・怖いものだ」

「これで・・・終わりよ！」

コインを飛ばす・・・得意の技だが・・・

「甘いですよ超電磁砲^{レールガン}」
「なっ!?!」

倒したはずの蝙蝠達が再生している・・・
さっき自分の攻撃で黒こげにしたはずなのに・・・

「くっ! 舐めんじゃないわよ!」

ドゴオーン!

く???く

「ふっふふ・・・楽しいなあ」

「アンタも性格歪んでるわね・・・」

「まったくだ・・・」

我らの作戦は計画通り・・・
この調子で行けば・・・ふふふ

「あたしも行つて来るわ・・・」

「頼んだぞ・・・」

「任せといて・・・」

我らの勝利は決定事項だ・・・

能力者なんぞに負けるはずがない・・・

能力者全滅計画も進み苦戦する能力者達

能力者は勝つことが出来るのか？

第十一話 闇衣死者（ディアボロス）（後書き）

作者「テスト終わった・・・」

蒼真「乙」

作者「次回は上条さん出る予定」

蒼真「やっぱここにも介入するのか・・・」

作者「さっすが上条さんですな」

蒼真「乙の一言だ」

作者「次回も頑張らないと・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm - - m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・次回もよろしくです」

作者「次回 第12話 ソウルディストーション 歪鏡怨念」

第十二話 歪鏡怨念（ソウルディストーション）（前書き）

更新遅れましたm - - m

通知表の残念な結果に受験勉強・・・orz

新たなる不能力者と最強の戦い

四天王VS第一位

第十二話 歪鏡怨念（ソウルディストーション）

「せっかくの楽しい祭りも台無しだよ・・・まったく！」

勘弁してくれよお・・・せっかくの楽しい祭りを壊しやがって！
不能力者つても意味分からん・・・

「第一位見つけえ」

「誰だ？・・・セリフからして不能力者だな」

余裕の表情・・・不吉な雰囲気な野郎だな・・・
不の空気・・・まあいつも通り終わらせる

「あたしは、不能力者ーLv5の歪深悠ゆがみはるかだよ」

「俺は・・・言うまでも無いだろ？」

「ふふっ・・・人気者だもんねえ」

なんかム力つく話し方だ・・・全部が不見たいな感じの女だ
先手必勝かな・・・

「行け！刃達よ！」

けっこうな数の刀を飛ばす、狭い路地だから回避は無理なはず

「そんなんで倒せるわけ無いでしょ」

「・・・っ？」

刀が当たってない？・・・刀が奴を避けているのか？
空間制御系の能力か？

「ばんしょうてんいん
万象天引」

これで奴を引き寄せれば・・・接近戦ならどうだ？

・・・？違うもんが引き寄せられてるじゃねえか！

「あははは！面白いねゝいろんな事が出来る能力かゝ羨ましいな」

「・・・どこが面白いのやらな」

「あたしは空間を歪ませ進行方向や・・・まあ説明めんどいから、
いいや」

空間を歪ませ進行方向を変化させたりって感じの能力か？

・・・時間も無いしな・・・終わりにしてやる

「絶対制御空間！」

「ありや！そりゃゝ反則だねえ・・・まあ時間稼ぎもやったし帰る
ね」

「なっ！？待てよ！」

・・・遅かったか・・・時間稼ぎ？何を企んでるんだ？

・・・急ぐか

新たな四天王と不能力者の企み・・・どうなるのか？

第十二話 歪鏡怨念（ソウルディストーション）（後書き）

作者「・・・m - - m」

蒼真「・・・遅い！」

作者「すみませんm - - m成績やら何やら・・・」

蒼真「言い訳無用・・・期待してる人は居ないが更新しろ！」

作者「短い文になりますが・・・更新してきます」

蒼真「それでいい」

作者「勉強せねば・・・それでは！」

作者「皆様からの評価・感想待ってますm - - m」

作者「駄文すぎて困りますが・・・次回もよろしくです！」

作者「次回 第13話 ミッシュンスタート 計画開始」

第十三話 計画実行（ミッションスタート）（前書き）

作者「テスト嫌だ…テスト嫌だ…テスト嫌だ」

蒼真「能力者の呪い？」

作者「遅れてすみませんm - - m」

蒼真「誰も期待してません」

作者「少しキャラのセリフなど変わってるかもです」

蒼真「……。」

第十三話 計画実行（ミッションスタート）

「超電磁砲と禁書目録はどこにありますか？」

「幻想創帝といっしょじゃなかったね」

あの二人さえ手に入れば完璧なんですけどねえ……ふふふ
我等が目的のため……手に入れますよ

（蒼真）

「御坂大丈夫か！？」

「くっ、なんなのよ！こいつ等！」

どこぞやの紳士服を装備した蝙蝠を纏う男と戦闘中の様子だな

「どうも幻想創帝さん……不瞳袁牙と申します」
ふどう えんが

「ご丁寧に……だがお別れだ」

「今の貴方に興味は無いので……」

目的は俺じゃない？……御坂か？誰だ？
ここに居る誰か？当麻？インデックス？

「だが……俺には勝てない！絶対制御空間！」
「チートは勘弁ですねえ……撤退と行きましょう」

こつも簡単に勝負を捨てるだど？
よく分からない奴らだ……

「お姉さま〜！」

「黒子！？大丈夫だったの？」

「不能力者と名乗る輩は撤退していきましたわ」

全員撤退？……そんな馬鹿な連中じゃ無いはずだ……
目的……

「……お悩みの君に答えをあげようか？」

「……っ！？」

「お決まりのリアクションをありがとう！」

……冗談だろ？なんて嫌な雰囲気を纏った奴だ
考えなくても分かる……不能力者だ

「御坂ちゃん、お菓子買ってあげるからさ！いつしよに来ない？」
「誰が行くもんですか！」

相手の挑発に乗せられたのか、雷槍を放つ御坂
通常的能力者ならゲームオーバーだが……

「僕的能力には勝てないよ〜御坂ちゃんじゃ」
「舐めてんじゃ無いわよ！」

ドゴォー……ン！

必殺の超電磁砲を放つが……まったくの無傷
先程と変わらずヘラヘラしている……どんな能力だ？

「蒼真ちゃんもどう？来ない？」

「お前は素晴らしい美少女だったら考えてたな」

「残念……自信あつただけだな」

考えてることも何をするのかも、まったく予想出来ない
絶対制御空間で終わりにするか？

「絶対制御空間も無意味だよ？」

「……心読む能力なのか？」

「残念……僕の能力は……CMの後？」

「疑問で聞かれても困るんだが……」

……凄くイライラするな……でも迂闊には仕掛けれない
相手の能力を把握しておきたいもんだ

「ラグナロク終焉世界……すべては僕の前に来る前に終わる……！LV5！よろしくね？」

不能力者の頂点、ラグナロク終焉世界彼の前にどんな攻撃を仕掛けるのか？
最強のLV5VS最強のLV5……。

第十三話 計画実行（ミッションスタート）（後書き）

蒼真「……」

作者「ゴメンナサイごめんなさいゴメンナサイ」

蒼真「……」

作者「さっ！切り替えが肝心だよ！」

蒼真「……………」

作者「ちゃんと更新していきます……」

蒼真「はあゝなんか言っても無駄な気がする」

作者「……それでは！^^」

作者「皆様からの評価・感想待ってます！m - - m」

作者「駄文ですが……次回もよろしくです！m - - m」

作者「次回 第14話 ラグナロク 終焉世界」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1861n/>

とある世界の幻想創帝（イマジンクリエイター）

2010年11月28日22時51分発行